

活動報告

全学FDワークショップ@文理学部 キャンパス報告

吉田 健一*

日本大学文理学部

Report on Whole Faculties FD Workshop at College of Humanities and Sciences

Ken-ichi Yoshida

College of Humanities and Sciences, Nihon University

This is the report on the Whole Faculties FD Workshop at College of Humanities and Sciences which was held at College of Humanities and Sciences campus on September 10, 2018. The theme of the workshop is to discuss “Solving problem of the freshman education” and to enable several participants who belong to different departments to discuss common issues.

キーワード：FDワークショップ，初年次教育，文理学部，ラーニングコモンズ

Keywords:

FD workshop, Freshman education, College of Humanities and Sciences, Learning Commons

はじめに

本文は、2018年9月10日（月）に文理学部本館ラーニングコモンズで実施された、全学FDワークショップ@文理学部の開催報告である。本ワークショップは、2つの目的を以って開催された。1つ目は日本大学FD推進センターが毎年開催している全学FDワークショップと同様のプログラムをこなすことで、文理学部におけるFD活動の活性化を図ることである。2つ目は初年次教育、特に自主創造の基礎1, 2, について各系（人文系、社会系、理学系）の教員がグループとして話し合う機会を設けることで、初年次教育の問題点を明確にすることである。

当日は、文理学部FD委員会の構成員がタスクフォース、または、講師や学科の代表として参加した。一部FD委員と重複するが18学科より1名ずつの教員16名（2名が病気のため欠席）が参加した。さらに、教務課より2名、ラーニングコモンズのデスク1名が運営スタッフとして協力してくれた。

1 文理学部・全学FDワークショップ実施概要

① 当日までの準備（スタッフミーティング）

2018年度当初から計画を立て始めていたが、時期とテーマ選びが難航したため、実際の準備は7月に入

*E-mail: yoshida@math.chs.nihon-u.ac.jp

投稿：2019年1月31日

受理：2019年2月12日

ってからであった。8月1日（水）に、国際関係学部の山中康資先生、危機管理学部の山添謙先生、及び本部学務部学務課の濱野泰三主任のアドバイスを頂きつつ、本ワークショップ初回のスタッフミーティングを行った。ミーティングでは講師を務めるFD委員会メンバーを中心に、全学FDワークショップ2017の動画を閲覧した。各講師は宿題として自分の担当箇所原稿を検討し、必要があれば修正を行ってくることにした。本ワークショップ開催の前の週の9月6日（木）にワークショップの予行を行い、グループワークをしやすいようにラーニングコモنزの机や椅子の配置を変更した。このことが後にラーニングコモنزの環境整備につながった。

② 当日（ワークショップ）

9時45分から受付を開始した。ステージ前の場所を全体講義用のスペースとして位置付け、可動式の机を配置した。10時にFD委員長の吉田の挨拶を皮切りにして、『ワークショップの進め方』を説明し、『アイスブレイク』としてグループ毎に自己紹介を行った。本学部では、この交流すら少ないのが現状であり、刺激的なことである。引き続き、FD委員長の吉田が『KJ法』について説明し、事前配布資料に基づいて、本学部の自主創造の基礎の問題点について私見を述べた。その後、スモールグループ（グループA＝人文系、グループB＝社会系、グループC＝理学系）に分かれて、ホワイトボードを利用して、KJ法にて問題点の抽出を行った（約40分）。結果は先ほどのステージ前に戻って、各グループそれぞれが抽出した問題点を説明した。その結果は写真に残した。多くの問題点が指摘されており、しかるべき機会に報告すべきであったと反省点している。

11時半頃から大川先生（FD委員・中国語中国文化学科）が前年度の全学FDワークショップの資料を改良したものを利用して、『学修目標』、特にGIOとSBOsについて講義した。内容は明確であり、聴衆の多くは理解できたと考えている。各グループは80分程の時間を使い、食事をしながら学修目標を作成した。一部のグループは事前資料にあるサンプルとほぼ同じものを踏襲したため、作業としては早かったが、内容の理解が進んだかどうかについては若干の疑問が残った。発表の順番を少し変えて、先ほどと同様にグループ毎に発表及び質疑応答を行った。

13時半頃からは古田先生（FD委員会副委員長・哲学科）が前年度の全学FDワークショップの資料を改良したものを利用して、『学修方略』について説明した。学修方略の順次制や現実的制約に戸惑いつつも全体としては良く検討されていたと思う。先ほどと同様にグループが先に作成した学修目標を到達すべき学修方略を作成し、ステージ前で発表を行った。

最後に、15時半頃から間篠先生（FD委員・教育学科）が自身の体験などを程よく織り交ぜながら、『学修評価』について明確に説明した。ただ、プロダクトを見る限りは形成的評価と総括的評価の違いが十分に認識されたかどうかは怪しい。最後には、各グループの代表者が発表を行い、質疑応答を行った。

FD委員長他、山中先生からの感想が述べられ、17時頃に終了した。

③ 反省（振り返り）

終了後に、FD委員長、教務課職員、ラーニングコモنزデスクの3名で振り返りを行った。

最も大きな反省点は、ワークショップの周知、参加者募集が遅れたことである。原因としてはテーマと時期の決定が遅れたことが挙げられる。ただ、実際には開催日時として9月第2週目ぐらいしか可能性がなく、他学部と競合してしまうということで、自動的に9月10日（月）に決定した。日時が決まらなかったため、スタッフミーティングの機会が十分に取れなかった（ただし、これは早く決めても難しいかも知れない）し、リハーサルの際に機材のチェックなどが十分になされていなかったため、プロダクトが複雑になればなるほど種々の問題点が生じてしまった。

2 成果（プロダクト）概要

各グループの成果物（写真）を載せておく。

グループ名： 班 セッション：学修目標
 コース：
 ユニット：自主創造の基礎2

一般目標：自主的に学習を継続できるために、基本的なアカデミックスキルとコミュニケーションスキルを身につける。

NO.	行動目標 (SBOs)	(領域)
①	調べもののために、適切な情報源を選択できる。(知識)	
②	学術的文章の構造を説明できる。(知識)	
③	学術的文章が書ける。(技能)	
④	プレゼンテーションなどで自分の考えをわかりやすく説明できる。(技能)	
⑤	文章が読め、理解ができる。(技能)	
⑥	ディスカッションに積極的に参加できる。(技能) (態度)	
⑦	意見が言える。(技能)	
⑧	読義理解のためのノートテキングを熟練する。	
⑨	周りの人と協力できる。(態度)	
⑩	論理的思考ができる。(技能)	

グループ名： C班 セッション：学修目標
 コース：
 ユニット：自主創造の基礎2

一般目標：専門性の高いレポート作成を可能にするために、論理的文章構成の基礎を学ぶ。

NO.	行動目標 (SBOs)	(領域)
①	課題の抽出ができる (知識、技能)	
②	適切な調査を行うことができる(知識、技能)	
③	適切に論点を整理する(知識)	
④	発表資料を作成する(技能)	
⑤	発表資料に基づいて意見を発表する(技能、態度)	
⑥	発表を聞いて議論する(態度)	
⑦		
⑧		

グループ名：A班 セッション：学修評価
 コース：
 ユニット：自主創造の基礎2

行動目標 (SBOs)	目的	対象領域	時期	方法	評価者
1(協働で情報収集)	形成的	知識	5回目	観察記録	SA、同級生
2(課題を協働で見出す)	形成的	知識	5回目	観察記録	SA、同級生
3(考えを口頭・文章で説明)	形成的	技能、態度	6~9回目	実地試験、観察記録	SA、同級生
3(考えを口頭・文章で説明)	総括的	技能、態度	11~14回目	実地試験、観察記録	教員
4(他者の考えを正しく捉えて理解)	形成的	技能	5、10、15回目	観察記録	教員、SA
5(解決方法を協働で検討し、提案)	形成的	技能、態度	10回目	実地試験、観察記録	SA、同級生
5(解決方法を協働で検討し、提案)	総括的	技能、態度	11~14回目	実地試験、観察記録	教員
6(多様な考えを認める)	形成的	態度	5~9回目	実地試験、観察記録	SA、同級生
6(多様な考えを認める)	総括的	態度	11~15回目	実地試験、観察記録	教員
7(他者の意見を傾聴)	形成的	技能、態度	6~9回目	観察記録	SA、同級生
8(リーダーシップや各役割を設定)	形成的	態度	1~5、10回目	観察記録	教員、SA、同級生

3 総括・まとめ

① ワークショップにおける成果

本ワークショップにおける成果として、FD活動の促進については十分な役割を果たしたかどうかは不明であるが、少なくとも異なる学科の教員が「初年次教育」について議論を交わす機会が与えられたことは意義があったと思われる。同時に、本部が求めるような『共通の』初年次教育を本学部で実施することの難しさも認識せざるを得ないことが終了後の感想として述べられたことも重要である。また、各系毎に求めるアカデミックスキルが大きく異なることが確認できた。

② ラーニングコモンズ運用に与えた影響

本ワークショップをラーニングコモンズで開催するという事で、配置換えを行った。このことにより、ラーニングコモンズのゾーン化に成功し、安定した学習環境の提供につながったことは喜ばしいことである。

また、若い教員が実際にラーニングコモンズを利用することで利便性に気づき、PCが利用できる机を授業で利用してくれることになった。

③ 反省点と今後の運用に関する覚書

- ・本ワークショップの開催時期としては9月第2週が望ましいことが分かった。
- ・初回のFD委員会で開催スケジュールを告知し、早くからテーマなどの検討に入らないと、参加者への周知が遅れてしまう。およそ7月第1週には各学科に参加者を募集しなければならない。
- ・タスクフォースミーティングの回数の確保が必要。
- ・フィードバックをどうするかは検討の余地がある。

4 参加者リスト

表1 【タスクフォース】

	所属	氏名	資格・役職	出欠
1	数学科	吉田 健一	FD 委員長	○
2	哲学科	古田 智久	FD 副委員長	○
3	中国語中国文化学科	大川 謙作	FD 委員	○
4	ドイツ文学科	関口 なほ子	FD 委員	○
5	教育学科	間篠 剛留	FD 委員	○
6	化学科	周 彪	FD 委員	○
7	生命科学科	井上 みずき	FD 委員	○
職員	教務課	福島 達也	教務課課長補佐	○
職員	教務課	川田 和希	教務課課員	○
職員	ラーニングコモンズ	鈴木 里織		○

表2 【参加者】

	所属	氏名	資格	グループ	出欠
1	哲学科	三平 正明	准教授	A	○
2	史学科	小川 雄	助教	A	○
3	国文学科	鈴木 功眞	教授	A	○
4	中国語中国文学科	舘野 正美	教授	A	○
5	英文学科	一條 祐哉	准教授	A	○
6	ドイツ文学科	森田 悟	教授	A	○
7	社会学科	久保田 裕之	教授	B	×
8	社会福祉学科	太田 由加里	教授	B	○
9	教育学科	大場 博幸	准教授	B	○
10	体育学科	松本 恵	准教授	B	○
11	心理学科	齋藤 慶典	准教授	B	○
12	総合文化	李 婷	助教	B	○
13	地球科学科	大八木 英夫	助教	C	○
14	数学科	三村 与士文	助教	C	○
15	情報科学科	森山 園子	教授	C	○
16	物理学科	十代 健	教授	C	×
17	生命科学科	濱崎 雄太	助教	C	○
18	化学科	岩堀 史靖	准教授	C	○

表3 【オブザーバー】

学部・所属	氏名	資格・役職	出欠
国際関係学部	山中 康資	教授	○
危機管理学部	山添 謙	准教授	○
学務部学務課	濱野 泰三	学務課主任	○

むすびに

本ワークショップの開催にあたり、国際関係学部の山中康資先生、危機管理学部の山添謙先生、及び本部学務部学務課の濱野泰三主任に貴重なご助言を頂き、当日はオブザーバーとしてご参加頂きました。また、ラーニングコモンズデスクの鈴木里織さんには前日の準備から当日まで環境整備に多大なご協力を頂きました。この場を借りて感謝の意を表したいと思います。